整理番号

D－5－3　　348

標 題 名

稲田害虫駆除方法

螟虫浮塵子ノ部

著 者 名

発行者名

茨城県農会

発 行 年

明治３５年（1902年）

製作年月

令和３年６月

寄贈図書
平野伊一氏

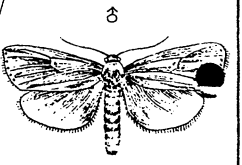
稲田害虫驅除方法

蝽虫浮塵子ノ部

茨城縣農會

植物防疫資料館図書之印
50年9月2日
植物防疫資料館
非賣品

稻ノ螟蟲



♂

1

1

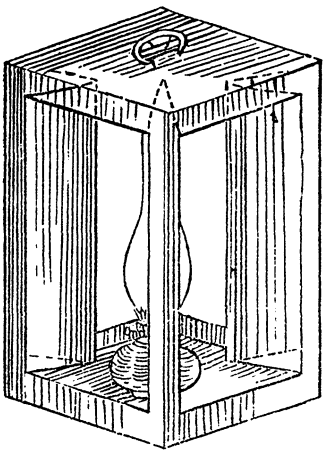
2

3

4

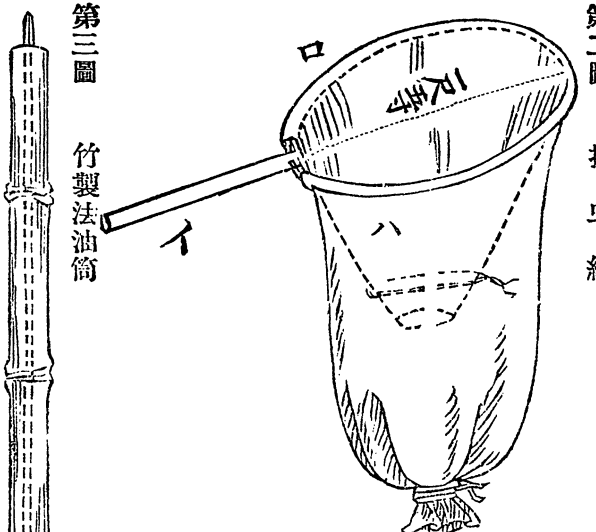
(1)二化螟蟲(雄)
(2)同蛹
(3)同幼蟲
(4)同卵塊

第一圖　誘蛾燈



此燈ハ其構造種々アレ𪜈其構造簡便ニテ價廉ナルモノヲ此ニ表ハス即チ石炭油ノ空罐ヲ利用シテ調製シ其中ニ普通ランプヲ据ヘタルモノナリ其底ノ深サハ凡二寸上部巾一寸五分存シ中央ヲ縦斷シテ之ヲ內部ニ折リ込ムヘシ此底內ニ石油及ヒ水ヲ入レテ點火シ夜中集リタル害虫ヲ捕殺スルモノナリ

第二圖　捕虫網

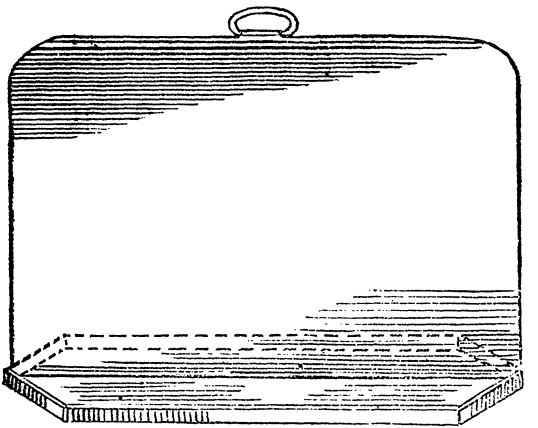


此網ハイ（）部ハブリッキ製ロ（）部ハ竹製ニシテ（）部ハ凡テ寒冷紗ヲ以テ拵テ返シヲ付シアレハ此袋中ニ掬ヘタル害虫ハ逃去スルコトナシ

第三圖　竹製法油筒

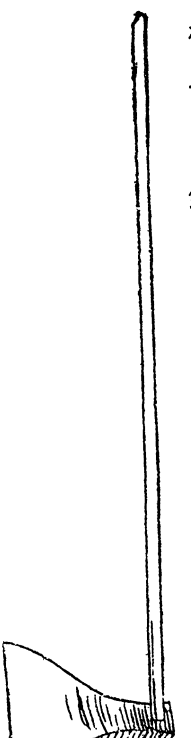
此筒ハ五六寸ノ竹ニテ長サ三尺位ニ切リテ底節ニ細キ穴ヲ穿チ此レニ細竹ヲ貫キ油ノ滴下ヲ加減スベシ

第四圖　舟形捕虫器



此ノ捕虫器ハ全体ブリツキ製ニテ舟ノ長ヲ凡二尺五寸底巾ハ稻株間ニ應シテ斟酌シ深ハ凡一寸五分トナス舟ノ中央ヲ縦斷シタル鉄葉板ハ其兩端ノミ舟体ニ附着シ下面ハ水ノ左右ニ流通スルキ透間ヲ存ス而シテ舟底ニ水ヲ入レ石油少許ヲ滴加シ稻株間ヲ押シツヽ兩側ノ株元ヲ振動シテ害虫ヲ油水ニ落シ驅除スルモノナリ

第五圖　株切り鍬



此ノ鍬ハ普通唐鍬ノ形ニ似テ薄ク且刃先ヲ鋭利ニシタルモノニシテ稻株ヲ切斷スルニ用ユルナリ

稻田害虫驅除方 螟虫浮塵子ノ部

第一 螟虫 ズイムシ、ズムシ、シンムシ、

稻螟虫ハ其年ノ氣候ニヨリ多少ノ相異アルモ大凡ソ五月中旬頃ヨリ七月上旬ニ亘リ羽化シ稻苗葉ニ産卵ス此レ第一期ノ發生ニシテ昨年第二期幼虫ノ越冬シタルモノナリ此第一期ノ幼虫ハ土用前ニ稻莖ヲ枯死セシムルノ被害ヲ爲ス第二期ハ大凡八月下旬ニ發生シテ稻葉ニ産附シ此卵子ヨリ孵化セル幼虫ハ即チ白穗ヲ生ゼシムル所ノモノニシテ其儘莖中ニ蝕害シツヽ翌年ニ越ユルモノナリ

蛾ハ灰褐色ノ翅ヲ有シ体長ハ三分五厘位ナリ幼虫ハ灰黃色ニシテ体ノ背、側ニ五條ノ褐色線アリ充分成長スルトキハ体長七八分トナル卵子ハ稻葉ノ先端ヨリ一二寸下リテ葉ノ表面ニ産附シアリ其狀恰モ魚鱗ノ排列セルガ如ク其色初メハ乳白色ナレモ日ヲ經ルニ從ヒ次第ニ黃色トナリ遂ニ黑褐色ニ變シ孵化ス此間大凡ソ十日內外ナリ卵一塊ノ數ハ四五

十粒乃至二百粒ナリ

驅除法

(一)点火誘殺法、螟蛾ハ火光ヲ慕フテ集マルノ特性アルヲ以テ誘蛾燈(第一圖ニ示ス)ヲ點火シ其ノ底部ニ水ヲ入レ石油少許ヲ滴加シ置クトキハ蛾自然ニ集リ來リテ火氣ニ觸レ水中ニ陷リ遂ニ死ニ至ルモノナリ

蛾ハ薄暮若シクハ深更ノ別ナク曇天又ハ陰氣ニテ風ナキ夜ハ常ニ飛翔スルモノナル故點火ハ可成終夜行フヲ可トス而シテ燈ハ常ニ能ク掃除ヲナシ火光ノ鮮明ナルヲ要ス點火ノ位置ハ苗代田ヲ距ル一間位ノ處ニ苗ノ葉先ヨリ凡ソ一尺ノ高サヲ度トシ竹木ノ類ニテ三架ヲ造リ中央ニ吊ルカ若クハ臺ヲ造リ其上ニ置ク可シ苗代田參畝歩ニ付一個以上(三畝歩以下ト雖モ個所ヲ異ニスレバ壹個)本田ハ參反歩ニ付一個以上ノ割合ヲ以テ點火スベシ

(二)誘蛾燈ヲ點火スル時期　苗代田ニ於テハ蛾發生期ヨリ移植ヲ終ル迄又本田ニ於テハ第一期發生中(七月上旬頃迄)及ビ第二期發生(八月中下

旬）中ハ點火スルヲ要ス

注意　螟蛾發生期ヲ豫知スルガ爲メニ其發生頃ニ至リ豫察燈ヲ點火シ置キ此ニ集マルノ度合ヲ見テ然ル后ニ一般ニ點火スルヲ可トス又第二期發生期ニハ豫察燈ニ據リテ發生ノ少ナキヲ知ルトキハ敢テ一般ニ點火セザルモ可ナリ

（三）捕殺法　捕虫網（第二圖ニ示ス）ヲ以テ蛾ヲ掬取スルノ法ニシテ苗代田ニ水ヲ深ク湛ヘ潜伏セル蛾ヲ葉上ニ集マラシメテ掬ヒ取ルナリ又水ヲ湛ヘザルモ夕景ニ至レバ蛾ハ葉上ニ出デ苗上ヲ飛翔スルモノナレバ此際掬ヒ取リテモ可ナリ

（四）採卵法　産卵ノ期節ニ際シ葉ト共ニ卵ヲ取リ去ルノ方法ニシテ毎日一回宛苗代ヲ見廻リテ細キ竹類ヲ以テ苗ノ葉先ヲ徐々ニ撫セ搜索シ卵ヲ除キ去ルナリ

本田ニ於テモ挿秧後苗ノ生着宜シク既ニ緑色ヲ加ヘタルトキ發生ノ後レタル螟蛾來リテ産卵スルガ故ニ其當時ハ少ナクモ五六日隔リニ二回程

其ノ卵塊ヲ除キ去ルヲ要ス其方法ハ方向ヲ定メ一方ヨリ巡視除卵スルニアリ其方向ハ太陽ニ面シ田中ヲ斜ニ横行シ稻葉ト眼トヲ水平ニシテ透視レバ卵塊ヲ見出スコト容易ナリ而シテ除去シタル卵塊ハ總テ燒棄スベシ

(五)枯莖切リ取リ法　螟虫ノ蝕入セル心枯レテ切取ルノ方法ニシテ本田ニ於テ枯莖及ビ白穗ヲ認ムルヤハ稻株ヲ損セザル樣根際ヨリ叮嚀ニ切リ取ルベシ此際螟虫ハ心葉ノ少シク枯萎セル莖ニ多ク存在スルモノナル故此等ハ殊ニ注意シテ取リ除キ燒棄ツベシ

(六)被害藁處分法　第二期發生ノ螟虫ハ多ク稻藁中ニ其儘潛伏シテ越年シ翌年ニ傳蕃スルヲ以テ其ノ潛伏螟虫ヲ殺シ明年ノ豫防ヲナス法ナリ稻ハ可成低ク刈リ取リ被害藁ハ翌春三月末迄厩屋ニ入レテ堆肥トナス可シ又槌ヲ以テ株元三尺許一應打壓スルカ若シクハロクロ器ニカケ壓搾シテ后使用スヘシ又一法ハ發生期ノ終ル迄(五月中ヨリ七月上旬)物置キ中ニ密閉シ置クベシ屋外ニ堆積セル藁ハ蕗ノ類ヲ以テ四圍ヲ包ミ覆

フヲ要ス又二毛作田ニアリテハ往々稻株中ニ潜伏スルコトアルガ故ニ株切鍬ヲ（第五圖ニ示ス）以テ株切リヲナシ后耕起スベシ

第二　浮塵子　ウンカ、ヨコバイ、コヌカムシ

浮塵子ハ其年ノ氣候ニヨリテ一定セザレドモ本縣ニ於テハ四五回發生スルモノヽ如シ其一回ハ昨年ヨリ越冬セル成虫又ハ幼虫苗代田ニ集リ來リテ成長產卵シ是ニ於テ一回ヲ越シ漸次本田ニ傳播スルモノナリ其成虫幼虫共ニ口部ハ針狀ニシテ此ノ針ヲ稻ノ組織中ニ挿入シ養液ヲ吸取シ稻ヲ黃枯萎縮セシム而シテ成虫ハ雌雄交尾ノ後鋸齒狀產卵器ヲ稻葉若クハ稻莖ニ挿入シ其ノ中ニ產卵ス其ノ卵子ハ種類ニヨリテ二三十粒ヨリ四五十粒宛橫列ヲ正シテ產附ス其ノ孵化ヨリ羽ヲ生シ成虫トナル時日ハ氣候ニヨリ大ニ遲速アレド大凡二十日內外ニシテ產卵スルニ至ル其蕃殖ノ速カナルヤ或學者ノ說ニヨレバ一双五代ニ至レバ其數五十九億四千万ニ達スト云ヘリ故ニ一朝是レガ發生注意ヲ怠ルキハ美田

ハ忽チ變シテ黃枯スルニ至ル種類ハ極メテ多ク本縣ニ於テ發生シ害ヲナスモノハ褄黑ウンカ褐色ウンカ大ウンカ等ナリトス

褄黑ウンカハ翅色黃綠色ニシテ翅端暗褐色体長一分五六厘アリテ其ノ性最モ强剛ナリ褐色ウンカハ前種ヨリ稍小ニシテ翅ハ透明褐色ナリ其性前種ニ比シ稍虛弱ナル傾キアルモ氣候陰濕ニシテ其蕃殖ニ適スルヤ非常ニ蔓延シ被害ヲ加ヘ稻ヲ腐枯セシメ登熟ヲ妨グルコアリ大ウンカハ大形ニシテ翅羽黃綠色ナリ此種ハ又畑地ニモ發生シテ害ヲ與フルナリ

驅除法

(一)捕殺法。捕殺網(第二圖ニ示ス)ヲ以テ掬ヒ取ルノ方法ナリ苗代田ニ於テ浮塵子ノ發生ヲ認メタルトキハ其ノ發生ノ度合ニヨリ毎日若シクハ隔日一二回宛捕虫網ヲ以テ苗上ヲ掬ヒ取ルベシ

(注意)誘蛾燈ヲ點火スルトキハ羽蟲ヲ誘殺スベシ

(二)注油法　水田ニ油類ヲ滴下シ驅殺スルノ方法ニシテ可成害虫ノ羽ヲ生

セザル幼虫ノ時ヲ見計ヒ行フベシ其法左ノ如シ

（イ）苗代田ニ於ケル注油法　可成深水トナシ出入口ヲ止メ置キ一畝歩ニ付四五勺（發生ノ度合ニヨリ加減スベシ）ノ割合ヲ以テ油類（油類菜種油魚油等皆可ナレ𪜈其價廉ニシテ得易効多キハ石油トス）ヲ注油筒（第三圖ニ示ス）ニ入レテ蹈切リノ溝中ニ點々滴下シ其油ノ一面ニ擴散スルヲ待チテ苗上ヲ箠ノ如キモノニテ拂ヒ落スキハ油類ノ爲メニ溺死スルニ至ル而シテ驅除シ終レバ油水ハ新水ト交換スルヲ要ス

（ロ）苗代跡ノ驅除　苗取リノ際ハ可成外ヨリ內ニ及ボシ殘苗アル場合ハ之ヲ中央ニ存スル樣ニス而シテ全ク苗取リヲ終リタルキハ（イ）法ノ如ク油ヲ滴下シ害虫ヲ驅除シテ后チ打チ起シ挿秧ヲナス可シ但シ注油量ハ最早苗ノ必要ナキニヨリ害虫ヲ十分驅除シ得ラル、程其量ヲ增加スルヲ要ス

（ハ）本田ノ注油法　稻作期中常ニ浮塵子發生蕃殖ノ摸樣ニ注意シ其發生ヲ認メタルキハ直チニ驅除ヲ行フベシ而シテ此驅除ヲ行フ回數ハ害虫發

生ノ度合ニヨリテ一定セザルモ凡ソ土用前ニ一回土用中ニ一回土用明后ニ一回若クハ若水前一回都合三回若クハ四回ノ注油ヲナスベシ仮令發生ヲ認メザルモ排水ノ際ニハ注油ヲ行ヒ而シテ後田水ヲ落スハ大ニ驅除豫防トナルモノナリ其本田注油ハ先ヅ養水ヲ深クシ石油（石油七分ニ菜種油若シクハ魚油三分ヲ混合シテ用ユレバ最モ可ナリ）ヲ一反歩ニ付五合乃至一升五合（發生ノ度合及ビ稻生育ノ摸樣ニヨリ加減スルヲ要ス）ノ割合ニテ注油筒ヲ以テ稻葉ニ油ノ懸ラザル樣點々滴下シ田面ニ能ク擴散スルヲ待チテ笹箒又ハ藁箒ノ類ヲ用ヰ稻株ヲ振動シ害虫ヲ拂ヒ落ス可シ此クシテ三四時間后ニハ先ヅ水口ヲ開キ養水ヲ入レツヽ出口ヲ平ニ少シク低シテ油水ヲ流シ去リ新水ト交換ス可シ又穗孕ミ期ニ於テ注油スルニハ成可ク叮嚀懇切ナルヲ要ス其注油ニ至リテハ前ト異ナラザレドモ害虫ヲ落下セシムルニハ稻莖ヲ折ラザル樣注意シ稻株ヲ分ケテ手掌又ハ便宜ノモノニテ油水ヲ振リ掛ケ充分稻株ヲ搖リ動カシテ害虫ヲ拂ヘ下スベシ蓋シ穗孕后稻田ヲ蹈ミ付クル程稻ニ害アル

モノナレバ充分叮嚀ニ之ヲ行ヒ及フ丈回數ヲ少ナクシテ奏効スルノ注意アルベキナリ

(ニ)注油ノ時期　稻田ニ注油スルニハ早朝又ハ小雨ノ時害虫ノ擧動不活潑ナル際ニ行フヲ最モ有効ナリトス此場合ニハ油ハ擴散シガタキカ故ニ一度温メテ温氣ノ去ラザル間ニ注加スルカ或ハ樟腦、酢、アルコールノ何レカヲ少シ混ジテ用ユルヲ良トス

(ホ)本田落水后ノ驅除　本田落水后ニアリテハ薄鉄葉(ブリツキ)製ノ舟形捕虫器（第四圖ニ示ス）又ハ株間ニ應ジタル細長ナルモノニ稍水ヲ入レ石油少許ヲ滴下シ株間ニ持チ行キ左右ノ稻株ヲ手ニテ拂ヒ落殺スベシ

(ヘ)遮斷法　此法ハ浮塵子ノ浸入及他方ニ蔓延スルヲ防禦スル爲ニ行フモノナリ浮塵子ハ蕃殖蔓延スルニハ初メ土手下或ハ田區ノ中央等ノ風通シ惡シキ場所ニ点々蕃殖シテ中心ヲナシ是レヨリ一方又ハ四方ニ蔓延スルモノナレバ此中心ヲ發見シタルトキハ猶豫ナク麥稈類ヲ用ヒ遮斷線ヲ設ケ他方ニ分布スルヲ防キ後チ注油法ニヨリ其局部ノ驅除ヲ行ヒ更

ニ全体ノ驅除ヲ行フベシ而シテ遮斷法ヲ設クルニハ畦畔ナヲバ其內側ヲ少シク切リ開キ之レニ麥稈ヲ薄ク並ヘ立テ根部ニ培ヒ若シクハ繩ニ麥稈（上部ヲ水ニ潤シタルモノ）ノ上端ヲ編ミ連ネ畦ニ一間乃至二三間隔リニ立テタル竹杭ノ上端ニ其繩ヲ夾ミ麥稈ノ下端畔ニ觸レル位ニ張リテ垣ノ如クシ時々之ニ油水ヲ注加スベシ又一田區內ノ一部分ヲ仕切ラメニハ稻ノ株間ニ油水ヲ注加シタル麥稈ヲ一ト握リ宛取リテ下方ニ向ケ突キ立テヽ一條ノ遮斷線ヲ設クベシ

(三)豫防法　浮塵子ハ各季畦畔堤塘ノ雜草中ニ潛伏越年スルモノナルヲ以テ發生多カリシ土地及ビ其附近ノ雜草ハ冬期ヨリ翌春ニカケ殘リナク燒却スベシ尙紫雲英田、麥田等ニ越年スルモノモ多キモノナレバ是等ハ春季刈採后直ニ水ヲ入レ注油又ハ其他便宜ノ驅除ヲナスベシ

害虫驅除豫防法

明治二十九年三月法律第一七號

第一條　此法律ニ於テ害虫ト稱スルハ農作物ヲ害ズル各種ノ虫類ヲ謂フ

第二條　驅除豫防スヘキ害虫ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

認可ヲ經タル種類以外ノ害虫發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ府縣知事ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコヲ得此場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スベシ

第三條　害虫田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徵收セシムルコヲ得

其ノ費用ノ徵收ニ關シテハ市制第百二條及町村制第百二條ヲ適用ス

第四條　害虫蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害虫田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコヲ得

第五條　府縣知事ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村

全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害虫ノ種類ニ依リテ田又畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得

夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ

夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第百廿三條及町村制第百二十七條ヲ適用セス

第六條　府縣知事ハ驅除豫防ノ爲必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物藁稈刈株雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條　驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條　土地所有者管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ地ニ入リ驅除豫防ニ從事スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　府縣知事又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ府縣稅（地方稅）又ハ郡費ヲ以テ第三條第四條第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナ

ル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得

第十條　虫類以外ノ動物ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得

第十一條　第三條ノ場合ニ於テ府縣知事ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條　第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ承クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條　此ノ法律ハ北海道沖繩縣其他市制町村制ヲ施行セサル島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

害虫驅除豫防法取扱手續

（明治二十九年三月農商務省令第六號）

第一條　害虫驅除豫防法第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害虫ノ種類及驅除豫防ノ方法ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ各害虫ニ付キ左ノ事

項ヲ記載スヘシ

一　名稱方言

二　主ナル被害農作物ノ種類

三　驅除豫防ノ方法

害虫驅除豫防法第二條第二項ノ場合ニ於テモ本條ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第二條　害虫驅除豫防法ノ施行ニ係ル命令ヲ發布シタルトキハ其都度本大臣ニ報告スヘシ

第三條　害虫一市町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ徵アルトキハ隣接市町村ニ於テ同時ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

第四條　害虫隣接府縣ニ蔓延セントスルノ虞アルトキハ其ノ旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第五條　二府縣以上ニ跨リ害虫蔓延シタルトキハ關係府縣ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ議定シ施行區域ヲ定メ驅除ヲ行フヘシ此場合ニ於テハ府縣

知事ハ其區域及第一條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ具申スヘシ

第六條　害虫驅除豫防法第十條ニ依リ虫類以外ノ動物ニ對シ該法律ノ適用ニ附キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ本令第一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第七條　害虫發生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ急報スヘシ

第八條　害虫蔓延シ若ハ蔓延ノ徵アリテ市町村費ヲ以テ之カ驅除豫防ヲ行フトキハ其都度直ニ左ノ事項ヲ本大臣ニ報告スヘシ

一害虫ノ種類

二郡市町村名

三被害農作物ノ種類及被害見積段別

四被害ノ狀況

第九條　毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害虫驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ翌年四月三十日マテニ本大臣ニ報告スヘシ

害虫驅除豫防報告樣式

（各害蟲ニ付區分スヘシ）

郡市名	被害町村ノ數	同上農作物ノ種類	同上見積段別	此平年收穫高	被害ニ付テ減收ノ高	驅除豫防ニ係ル市町村費	同上夫役ノ數	同上郡費補助額	同上府縣稅（地方稅）補助額
何市									
何郡									
計									

害虫驅除ニ付注意ノ件（道廳府縣）

明治二十九年三月二十八日農商務省訓令第五號

害蟲ノ驅除ハ其發生ノ初期ニ於テ之ヲ行フヲ最モ効アリトス故ニ苟モ農作物ヲ害スル蟲類ノ發生シタル場合ニ於テハ農家ヲシテ其機ヲ失フコトナク務メテ之カ驅除ニ從事セシムヘシ

害蟲驅除豫防規則（三十年七月十日本縣令第三十六號及三十五年四月廿八日本縣令第四十三號）

第一條　本縣管内ニ於テ驅除豫防スヘキ害虫ハ左ノ種類トス

一螟虫（ズイムシ シンムシ）　一苞虫（ツトムシ ツトコムシ）　一葉巻蟲（ハマクリムシ ハマキムシ）

一浮塵子（ウンカ コヌカムシ）　一椿象（オーカムシ）　一蚜蟲（アブラムシ）

一金龜子（コガヂムシ）　一地蚕（ヨトウムシ 子キリムシ）　一桑蠖（シヤクトリムシ クハヌスヒト）

一蛞蝓（ケムシ）　一天牛（カミキリムシ クハキリムシ）　一蟲蠹（イナゴ）

一飛蝗（バッタ）　一螟蛉（アヲムシ）　一象鼻蟲（ゾウムシ）

第二條　害蟲驅除豫防ノ方法左ノ如シ

第一　螟虫

一田畑及苗代ノ傍ニ点火シテ蛾ヲ誘殺スヘシ

二卵ヲ捜索驅除スヘシ

三被害ノ藁稈ハ焼棄スヘシ

四被害ノ殘株ハ堀取リ之ヲ焼クカ若クハ堆肥トナシ蟄伏セル幼蟲及蛹ヲ蒸殺スヘシ

第二　苞　蟲

一田傍ニ点火シテ蛾ヲ誘殺スヘシ

二苞稟ノ巢ニ潜伏セル幼虫ヲ捕殺スヘシ

第三　葉巻蟲

一捕虫網ヲ以テ蝶ヲ捕殺スヘシ

二捲束セシ稻葉ヲ梳リ驅除スヘシ

三冬期田畔路傍ノ雜草ヲ燒盡スヘシ

第四　浮塵子

一被害ノ稻田ニ水ヲ張リ之ニ鯨油又ハ石油ヲ注キ水上ニ落下セシメテ驅除スヘシ

二点火誘殺法ヲ行フヘシ

三畦畔ノ雜草ヲ刈リ之ヲ燒盡スヘシ

第五　椿象

一發生ノ初期ニアリテハ石灰水煙草莖ノ煮汁等ヲ以テ之ヲ驅殺スヘシ

二早朝捕蟲網ヲ以テ捕獲スヘシ

第六　蚜蟲

一早朝石灰水、灰汁、石鹸水、煙草煮汁等ヲ撒布スヘシ

第七　金龜子

一点火誘殺スヘシ

二早朝又ハ雨後ニ於テ捕殺スヘシ

第八　地蚕

一卵及蛹蛾ヲ捜索捕殺スヘシ

二畑ノ周圍ニ溝ヲ堀リ陥落スルモノヲ捕殺スヘシ

第九　桑蠖

一桑園ヲ見廻リ幼虫ヲ捜索鋏殺スヘシ

二冬期落葉セバ之ヲ焼却スヘシ

第十　蚧蠣

一点火誘殺法ヲ行フヘシ

二枝葉ニ群集セル仔蟲ヲ捕殺スヘシ

第十一　天牛

一夜間篝火ヲ以テ誘殺スヘシ

二根苅桑ノ枝條ニ被害ノ痕跡アレハ之ヲ切取リ燒却スヘシ

三被害ノ個所ヨリシテ針金ヲ通シテ之ヲ驅殺スヘシ

第十二　蠢　螽　飛蝗

一卵ヲ捜索捕殺スヘシ

二未ダ翅ノ生セザル時或方面ニ溝ヲ穿チ其中ニ追込ミテ捕殺スヘシ

三早朝手網ヲ以テ掬ヒ若クハ網ヲ張リテ捕殺スヘシ

第十三　螟　蛉

一卵ヲ捜索シテ之ヲ捻殺スヘシ

二幼虫ヲ捕殺スヘシ

三蛾ハ捕蟲網ヲ以テ捕殺シ又ハ点火誘殺スヘシ

第十四　象　鼻　蟲

一早朝又ハ雨后ニ於テ捕殺スヘシ

第三條　害蟲田畑ニ發生シ又ハ發生ノ兆アルトキハ田畑作人ハ直チニ驅

除豫防ニ着手シ同時ニ其旨口頭又ハ書面ヲ以テ市町村長ニ届出テ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ急報スヘシ

市町村長郡長ニ於テ害蟲田畑ニ發生シ又ハ發生ノ兆アルヲ發見シタルトキ亦同シ

第四條　郡市長ニ於テ前條ノ報告ヲナストキハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　害蟲ノ種類及其町村

二　驅除豫防法ヲ施行スヘキ區域幷期限

三　被害作物ノ種類

四　被害見積反別

第五條　本則第一條ニ列記スル虫類以外ノ害虫發生シ又ハ發生ノ兆アルヲ發見シタルトキハ田畑作人ニ在テハ適宜驅除豫防ニ着手シ之ト同時ニ本則第三條ノ手續ヲナシ又町村長ニ在テハ郡長ニ郡市長ハ本則第四條ノ事項ヲ具シ知事ニ急報スヘシ

第六條　害虫驅除豫防法第三條ニヨリ驅除豫防ノ施行ヲ命令シタルトキ

ハ郡長ハ町村長ニ市町村長ハ該田畑作人ヲシテ驅除豫防ヲ施行セシムヘシ

第七條　前條ノ塲合ニ於テ田畑作人驅除豫防ヲ施行セサルトキハ郡長ハ直チニ町村長ニ命シ町村費ヲ以テ之ヲ施行セシメ市長ハ市費ヲ以テ之ヲ施行シ其費用ハ害虫驅除豫防法第三條第二項ニヨリ其田畑作人ヨリ徴收スヘシ

第八條　害虫蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若クハ害虫田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ本則第四條ノ事項ヲ具シ知事ニ急報スヘシ

第九條　前條ニ於テ驅除豫防施行ノ命令ヲ發シタルトキハ郡長ハ町村長ニ命シ町村費ヲ以テ之ヲ施行セシメ市長ハ市費ヲ以テ之ヲ施行スヘシ

第十條　本則第八條ノ塲合ニ於テ夫役ヲ賦課スル必要アリト認ムルトキハ郡市長ハ豫メ賦課ノ區域及課率ヲ定メ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十一條　害虫豫防法第六條ニヨリ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物藁稈刈株雜草

ヲ扱棄若クハ燒棄スル必要アリト認ムルトキハ町村長ハ郡長ヲ經郡市長ハ意見ヲ具シ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十二條　害虫驅除豫防ノ施行期間ハ其景況ヲ町村長ヨリ郡長ニ郡市長ヨリ知事ニ時々報告スヘシ

第十三條　害虫蔓延ノ兆アルトキハ町村長ハ隣接市町村長ヘ市長ハ隣接郡長及町村長ヘ通報スヘシ

第十四條　害虫驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニヨリ町村長ハ翌年四月十日マテニ郡長ニ報告シ郡市長ハ其月二十日マテニ報告スヘシ（表式畧ス）

茨城縣訓令甲第十一號

郡市役所
町村役場

本日茨城縣告諭第三號ヲ以テ害虫驅除豫防實施之件告諭セシニ既ニ縣下

ニ於テ螟虫及浮塵子發生セシ地方アリ依テ時期ヲ失セザル樣速ニ當業者ヲシテ驅除豫防ヲ勵行セシムル樣努ムヘシ

明治三十五年五月二十一日

茨城縣知事　河野忠三

茨城縣告諭第三號

近年害虫發生益甚シク特ニ昨年ノ如キハ其害ヲ被リシ地方尠ナカラス依テ本年三月一日茨城縣告諭第二號ヲ以テ當業者ニ於テ豫メ適當ノ方法ヲ設ケ害虫驅除豫防ニ關スル準備ヲ怠ラザル樣告諭セシニ本年稻播種期前ヨリ氣候順ニ順ヲ失シ寒暄常ナク螟虫及浮塵子發生ノ虞アリ又本縣ニ隣接セル千葉縣ニ於テハ螟虫浮塵子發生ノ虞アリ本年四月十一日千葉縣令第三拾號ヲ以テ來ル六月三拾日マテ苗代ニ於テ驅除豫防ヲ行フコヲ命シ目下該虫驅除豫防中ニ属シ殊ニ縣下或ル地方ニ於テハ既ニ該虫發生ノ報アリ頗ル戒心ス可キ事トス而シテ一年數回ノ發生期アル之レ等害虫ニ對

シテハ初回發生期即チ稻苗代ニ於テ驅除豫防ヲ行フヲ最緊要ナリトス若之レ等害虫ニシテ本田ニ蔓延センカ其驅除豫防ノ法亦容易ニ行フ可カラズ然ルニ常業者ニ於テハ明治三十四年十月茨城縣令第五十四號ニ據リ惡ク害虫驅除豫防ニ至便ナル短冊形稻苗代トセルヲ以テ奏効難キニアラザルベシ依テ稻苗代ニ於テ來ル六月三十日マテ螟虫ニ對シテハ捕蛾及採卵浮塵子ニ對シテハ注油陷殺及捕殺等ノ驅除豫防ヲ專ラ行フ樣努ムヘシ

明治三十五年五月廿一日

茨城縣知事　河野忠三

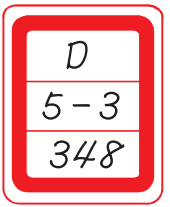
明治三十五年五月廿九日印刷
明治三十五年六月　二　日發行

茨城縣農會
茨城縣東茨城郡下大野村大字小泉廿三番地
寄留水戸市上市上金町七十二番地

發行人　飛田德次郎
仝縣水戸市上市黑羽根町十二番地

印刷人　栗原敬恭
仝縣水戸市上市黑羽根町十二番地

印刷所　茨城印刷合資會社


D
5 – 3
348